出前講座「香りへの招待」報告

広島大学マスターズ会員　平田敏文

講座名：東広島市教育文化振興事業団　生涯学習講座
日　時：2017 年 11 月 22 日（水）14：00～16：00
場　所：東広島芸術文化ホール「くらら」研修室
参加者：１２名

私たちの暮らしと密接な係わりを持っている“香り”をテーマにして，「香りの文化」，「香りの化学」，「香りの生理学」について紹介した。以下にその概要を記載する。

（A）香りの文化―“香り”を楽しむのは人間だけ？

（1）香りのルーツを求めて

(a) 古代エジプトの憧れの香り：「乳香（フランキンセンス）」、「没薬（ミルラ）」

(b) ギリシャ神話に出てくる香り：「薄荷（ミント）」、「バラ（ローズ）」

Sety II 墳墓の壁画「香を焚く王」

（2）日本の香りの文化

(a) 万葉集や古今和歌集に詠われた香り

(b) 歴史にみる高貴な香り

「竜脳」（フタバガキ科（椿の仲間）

「蘭奢待」（伽羅木の一種（黄熟香）

なにびとか　着て脱ぎかけし　ふじばかま
来る秋ごとに　野辺をにおわす
藤原敏行
（古今和歌集）

（B）香りの化学―“香り”とはどのようなものか？

（1）香料について

(a) 植物から香料

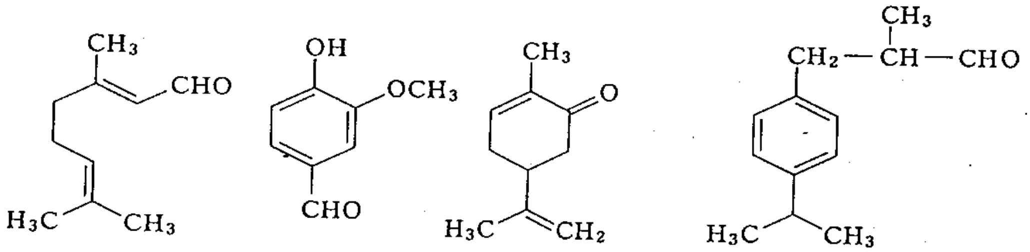
「ローズ」，「ジャスミン」，「ネロリ」

(b) 動物からの香料

「じゃ香」，「竜涎香」

（2）“香り”を決める化学物質

(a) 花や食品の香り：薔薇，まったけ，コーヒー，バニラ



シトラール（レモン）　バニリン（バニラ）　カルボン（スペアミント）　シクラメンアルデヒド（シクラメン）

(b) ライオンもうっとりする香り：マタタビ（マタタビラクトン）

(c) 虫が好かない香り：除虫菊（ピレトリン），楠（樟脳），ゼラニウム

(d) 香りの芸術－香水

（C）香りの生理学—生き物にとって“香り”とは何か？

（1）香りによる生物のコミュニケーション

(a) モンシロチョウとキャベツの駆け引き

(b) 鮭の母川回帰

(c) 香りを化学兵器として使う虫

（2）香りの脳への伝達と記憶

(a) 嗅覚受容体 - 人間の鼻は蛙なみ

(b) 脳への伝達機構

（3）アロマテラピー

(a) 嗅覚刺激による間接的な療法

（フランス方式）

(b) 精油を用いる直接的な療法

（イギリス方式）

“香り”の総合的な記憶

出来る限り，化学色をおさえて，“香りの文化”にウエイトを置いた講義とした。話題を盛り沢山にし過ぎたために質問時間が無くなってしまったが、最後まで熱心に聞いていただき感謝している。